

あの震災から半年。
熊本県は今...?

kumamoto report
熊本レポート

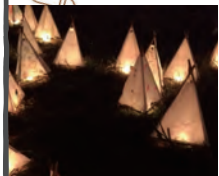
2016年9月22日(木)~23日(金)
感動祭取材:2016年10月16日(日)



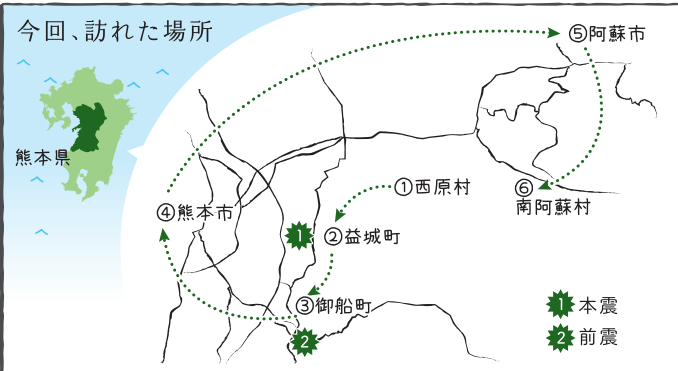
2016年4月に発生した熊本地震、あれからも半年の時間がたちました。みなさんほどのくらい、現地の状況をご存知でしょうか。私たち「わたす日本橋」は、東日本大震災をきっかけに生まれた情報発信拠点です。被害を受けた地域との「橋わたし」になることを目指して、これまで活動してきました。できることなら、今年震災のあった熊本の状況も、みなさんにお伝えできないか——そう考えた「わたす日本橋」のメンバーが、さまざまな街や人のもとをたずねてきました。



現地では、復興に向けてどのような動きが生まれているのか。地元の方たちは、今どうしているのか。私たちの目に映った、熊本の「今」をお伝えします。



kumamoto
いざ、熊本へ! 2016年 9月22日(木)~23日(金)



続きは、裏面へ!

みなさんは知っていますか?
震災被害のその後

私たちはこれまで何度か、震災被害を受けた東北にお邪魔してきました。地元の方たちと触れ合ううち、これに必要なのは正しい情報を知り、相互の交流を生んで、人の輪を広げていくことだと思えるようになりました。そこで今回、私たちが訪れたのは、熊本県内にある6つの町と村です。熊本地震の震源地に近く、どの地域も大きな被害を受けました。半年が経過した現在も、まだ多くの方が仮設住宅での生活を送っています。

時がたち、ニュースで取り上げられる回数が減るにつれ、震災被害の状況は人々の記憶から少しずつ薄れていってしまうでしょう。それは仕方がないのかもしれませんが、でも日常のほんの片すみでもいい。「わたす新聞」がお届けする情報に触れることで、遠い地で今もがんばる方たちに想いをはせてもらえたら幸いです。



Q.今、私たちができることは?

A. 必要なボランティア情報は、各自治体の社会福祉協議会のHPに掲載されています。状況によって必要とされることが異なるため、まずは各自治体や支援団体などの取組みをチェックしてみてください。

Q.どのくらいの被害だった?

A. 「熊本地震」とは、2016年4月14日夜、熊本県熊本地方を震源地として発生した前震(M6.5)と、4月16日未明の本震(M7.3)を指します。幸い津波による被害拡大はありませんでしたが、地震そのものを原因とした直接死、建物の倒壊件数はかなりの数に上りました。半年たった今でも、多くの方が仮設住宅などで避難生活を送っています。

熊本地震とは?

熊本レポート:あの震災から半年、熊本県は今...?

1. 西原村

自分の家なのに
帰りたくても帰れない

まず最初に訪れた西原村では、倒壊のリスクがある家に「要注意宅地」の貼り紙がありました。まだ自分の家に帰れない住人の方が、たくさんいるそうです。



一見無害に見えても、倒壊する危険性があるんですね。

6. 南阿蘇村

アウトドア義援隊が
避難生活を支えてくれた

アウトドア用品を扱う「モンベル南阿蘇店」では、本震当日に早くもテントなどの商品が集結したそうです。そして翌日から、地域の方に無料でテントや寝袋を貸し出し避難場所を提供しました。(写真は当時のようす)モンベルの呼びかけで集った「アウトドア義援隊」のみなさんも活躍。現在も、店舗スタッフの方が支援活動を続けています。自宅も被災してしまっただけでなく、店長さん、私たちが「緊急時には必要だと感じたものは？」という問いに「笑顔です」とひとこと。今なお不便なこともたくさんあるはずなのに、その言葉に思わず胸を打たれました。



写真提供:株式会社モンベル

もちろん電気も水も大切だけど、人には「笑顔」が必要なんですね。

2. 益城町

避難所から
仮設住宅へ
一歩ずつ少しずつ



今年7月に完成した、およそ5000戸の「仮設団地」。敷地内にイオンの仮設店舗などもあり、住民の方の利便性に配慮されています。こうした仮設住宅が建設され、益城町の最後の避難所となっていた体育館が、この秋閉鎖されました。本震の震源地に近い益城町は、かなり被害の大きかった地域です。全壊した建物も多数あり、その多くは未だに手つかずのまま残されていました。今年の夏頃から、ようやく少しずつ解体や撤去がはじまっています。

1日も早く、もとの生活に戻れますように!

3. 御船町

女性たちのパワーで
暮らしを立て直す!



食器セットにあたたかいメッセージを発見しました!

私たちが御船町で出会ったのは地元で食堂を営む由代さん。丸山さん母娘です。震災直後、地域の人たちと力を合わせて避難所を共同運営しながら生活していたそうです。丸山さんたちは「家族の食器プロジェクト」の窓口のみずから買って出て、避難所から仮設住宅に移られる方々に、家族の人数分の食器やキッチン用品を配布していました。彼女たちの存在も、地域を支える大きな力のひとつになっているのを感じました!

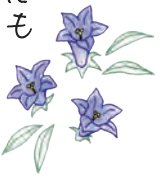
東北の被災地でも、丸山さんのようなパワフルで素敵な女性にたくさん出会いました。たいへんな中でも、しなやかに、明るく強くあろうとする姿は、お手本にしたいです!

5. 阿蘇市

美しい
景色の中にも
地震の傷跡が



もとはまっすぐだった道にも、大きな段差が生じていました。



熊本といえば阿蘇! これまでと変わらぬ景色で私たちを迎えてくれたように見えたが、山の斜面にはいくつもの土砂崩れの跡が。主要な橋や道路が埋まってしまったことで、交通ルートにもかなりの影響が出ていました。



国の重要文化財に指定されている「阿蘇神社」も倒壊。

4. 熊本市

有名な熊本城も
石垣が崩壊



ニュースでも目にすることがある人が多いと思いますが、熊本城の石垣も崩壊。これを復旧するためにはかなりの時間が必要になるそうです。

編集後記

熊本は、今年6月にも集中豪雨に見舞われました。さらに今度は阿蘇山が噴火……。そんなニュースに触れるたびに、今回お会いしたみなさんの顔がよぎり、心を痛めています。現地ではまだまだ痛々しい風景が多く見られましたが、地元の方が協力して復興を目指す姿を見て、逆に私たちが多くのことを学ばせていただきました。一日も早い復興を、心から祈っています。

熊本で出会ったすべての方々に感謝を込めて。

発行元: わたす日本橋 <http://www.watasu.net/>

大盛況でした! みふね がんばろう! 御船! ~心に響け~ 感動祭 10/16



「わたす日本橋」で集めた募金をこのお祭りに寄付させていただきました。

まだまだ復興途中の御船町ですが、地震から半年がたった10月、これまで支援してくれた人たちに感謝を伝えるため、地域の人たちに少しでも元気になってもらうために「感動祭」を開催しました。九州全土から「よさこい」チームが集結して華やかなステージを披露したほか、さまざまな催しが企画され、お祭りは大盛況!

町の方々の祈りが込められた、たくさんの三角灯籠。その光が、夜の御船町をやさしく包み込みました。町にはまだ痛々しい震災跡が残っており、一日も早い復興を、心から願わずにはいられませんでした。